

令和6年度第2回白井市市民活動推進委員会（審査会）会議録

1. 開催日時 令和6年5月30日（木）午後1時30分～4時00分
2. 開催場所 白井市役所 東庁舎1階 会議室101
3. 出席者 関口宏聡委員、出川真也委員、大田茂子委員、  
富澤賢司委員、木下新治委員、篠原美保委員（名簿順）
4. 欠席者 赤間賢二委員
5. 事務局 今井市民環境経済部長、鈴木市民活動支援課長、石田主査、伊東主事補
6. 傍聴者 1名
7. 議 事
  - (1) 補助金審査の流れ [非公開]
  - (2) プレゼンテーション [公開]
  - (3) 補助金審査 [非公開]
8. 会議概要

(1) 補助金審査の流れ [非公開]

(理由) 白井市情報公開条例第9条第1項第5号に該当するため。

(2) プレゼンテーション [公開]

○桜の会 初めまして、桜の会と申します。どうぞよろしく申し上げます。

まず、桜の会の設立についてなのですが、昨年、私たちは、みどり協、みどりの里協議会という協議会とPTAが行う様々な行事に参加をさせてもらって来ました。

その中で、ばらっばまつり、ばらっばづくり講習会というのがありまして、こちらをやらせていただいたときに、おまんじゅうを作るだけじゃなくて、その後に、みんなの笑顔がつくれていたということと、そして、それを子供たちが食したのですが、とにかくおいしいと、これの嵐だったのですね。また食べたい、また食べたい。そして、参加して下さった方々が、その後に口々に、次はいつやるのという、そういう声がありました。

冬ですね、平塚分校というところで、書初めを子供たちがやらせていただいたんです。そのときも、学校で習字をしている子供たちの姿とは全く違う姿が子供たちにあっただけです。伸び伸びといますか、楽しそうに書初めをするんです。また、そこでも、ばらっばのときと同じように、最後に参加された方々が、これ恒例行事にしてほしいと言うんです。その参加された方々も、ある程度そのときは限定させていただいていたのですが、中学校のお姉ちゃん、お兄ちゃんも書初めの宿題があると。どうかそれに交えてくれと、そういうような話が出ました。

私たち、それを個人ではもう無理だと、これはちゃんと組織にして、会にして、これはちゃんとやっていっていいものなのじゃないか、悪いものじゃないんじゃないか、会を立ち上げました。

そこから8か月ぐらいたっています。やっぱりメンバーの中では、何も気持ちが変わっていない。そして、いろいろな案が出てきて、欲張りかもしれないのですが、地域限定じゃなく、年齢も関係なく、みんな来たいと言ってくれる人たちとできないかという話にもなっています。それに向けて、さらにみんなが個々に準備をしています。それがスタートできるように、いつでもできるように前向いて頑張っています。

ただ、これ、私たちの力だけじゃできないというところに立っています。なので、今日、もしできることなら、先生方の、皆様のお力をお借りできないか、そう思って今しゃべらせていただいています。桜が来年またきれいに咲いたときに、私たちの桜の会も咲いていたいなと思っています。

以上です。ありがとうございました。

○委員長 まだ時間ありますよ。

○桜の会 大丈夫ですか。あと30秒。私たち会が催し物を何かして、ここに来てほしいとか、そういうことじゃないのですね。私たちが共にやるといいますか、来てくださる人と一緒に、その時をつくりたいという、そして一緒に笑いたい、そういうことができてきた1年なので、繰り返したいです。ありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

それでは、この後は7分間、委員からの質問とさせていただきます。一問一答でいきたいと思いますが、どなたかいかがでしょうか。

●●委員、どうぞ。

○●●委員 とてもすてきな、熱意のあるお言葉だったなと思います。

私が聞きたいのは、今までに、ばらっぱまんじゅうとかを作られた経緯があって、そのときに何がいけなくて、やっぱり必要だなと思って、蒸し器を今回2台欲しいよと思われたのか、今あるものが足りないのか、それとも老朽化し過ぎているのか、その辺りをお聞きしたいです。お願いします。

○桜の会 ありがとうございます。蒸し器が足りないのです。足りないというのは、今、公民センターに四つあるのですね。この四つ、一つの蒸し器に最高3人まで、一つの蒸し器に対して3人、ばらっぱまんじゅうを作って蒸すという行動が取れます。

ただ、桜の会のメンバーが11人なのです。11人がもし全員出してしまうと、その桜の会だけで埋まってしまいます。来てくださると言っている方たちの蒸し器はといったら、ないのですね。

この間やらせていただいたときは、個人にお借りに願いにいくような、すいません、

貸してください、すいません、貸してくださいという状態です。これは続かない。あまり人のうちのものを毎回借りてということは、不可能に近いということで申請させていただきました。

○委員長 ありがとうございます。よろしいですか。

○●●委員 はい。

○委員長 では、ほかの方、いかがでしょうか。

●●委員、お願いします。

○●●委員 お疲れさまです。PTAさんの皆さんが一緒になってやるというふうになってきたのが、なかなか普通は、ほかではないのですけれども、どんな感じで、そう集まることのきっかけができたのかなと思っております。

○桜の会 私は、小学校の子供が5人もいたものですから、PTAのほうに長年、携わってきたのですけれども。PTAは任意加入ということなのですけれども、半ば強制的な加入になっていまして、役員をやったださる方も、自分から自らやるではなくて、やらされている感がよく出ているPTAだったのですね。なので、いろいろ同じ方向を向いて頑張っていけるような団体があったらいいなと思って、いろいろ話して、こういう団体をつくることになりました。

そこでPTAの方たちも、この団体は何をやっているのだろう、どういうことをしているのだろうというのを興味を持っていただいて、少しずつ中に入ってきていただけるようになりました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

●●委員。

○●●委員 発表ありがとうございました。皆さんの結束力がとても強い印象を受けました。

発表の中では、イベント直後の感想の例をいただいたのですけれども、それ以外のイベント実施後等で、何かこういう効果があったよみたいな、何かトピックがあれば、お聞かせください。

○委員長 参加者からの何か声というか、エピソードというか、そういうものが何かあれば。

○桜の会 参加されて、来年あるかどうか、結局、今日がかかっていますので。本当にぶっちゃけといいですか、素直な話をさせていただくと、本当に先立つものがないということで始めているので、もし、できたらねという話はみんなにしていまして。そうしたら、そうしたいと、ばらっぱまんじゅうと一緒にまた作りたいという人たちは、勝手に山に入って、ばらっぱを取っているのです。そういう行動が勝手に取れています。

○●●委員 ありがとうございます。

○委員長 今、残りありますよね、まだ。

○事務局 まだ。

○委員長 あともう1問ぐらいいけますが。

●●委員。

○●●委員 とかく子供の対象なので、私、今、収支予算計画書を見させていただいております。PTAということであるのですが、補助対象外経費もここに書かれていると思うのですが、例えば減免を受けていたりとか、ほかからの補助を受けていないかどうか確認をさせていただきたいのですけれども、その点、この収支予算計画書どおりということによろしいのでしょうか。それとも、何か修正であれば教えてください。

以上です。

○桜の会 ほかからの補助は何も受けていなくて、まち協の中に所属はしているのですが、まち協のほうからも、桜の会に対して予算を出しますとか、そういうお話は一切ないので、補助は受けていないということで、よろしくお願いします。

○●●委員 このとおりということで。

○委員長 ありがとうございます。よくも悪くもという感じ。二重補助にならないようにということは、一応、そういうことが確認事項としてありましたので、事実としては、そういうことだということで、御安心くださいということで。

あともう一人ぐらいいけますが。

●●委員、いいですか。何かコメントとかでも。

○●●委員 新しい市民団体を形成していくというところだと思っておりますので、ぜひ地域に根差したチャレンジを頑張ってくださいと思います。

○委員長 以上がコメントということで。

それでは、ちょうど時間になりましたので、桜の会さんは以上とさせていただきます。どうもお忙しいところ、ありがとうございました。

○白井市文化センターを未来につなぐ会 今、御紹介にあずかりました白井市文化センターを未来につなぐ会の代表の●●と申します。本日は、副代表とともに参加させていただいております。よろしくお願いいたします。

まず、当会について御説明させていただきます。私たち白井市文化センターを未来につなぐ会は、文化センターを市民の子供たちのため、また、文化活動のために維持継続を求めて立ち上げた市民団体です。

施設の老朽化のため改修するに当たり、市は、施設は存続とするが、プラネタリウムは一部機能停止または廃止、そのほかは機能縮小とまとめました。そこで当会は、この

縮小問題を周知することと、文化センターと街の活性化を目指して、今、活動をしております。

今回、謎解きを企画したのは、ふだん施設を利用しない人に足を運んでもらったり、既に利用している人も、新たな発見をしてもらうことで、施設を市民にアピールできると考えたからです。

この謎解きなのですけれども、市民団体「しろい d e あそ部」さんに作成を依頼して、作っていただきました。

主に郷土資料館を見てもらう内容になっていますが、プラネタリウム、図書館のヴィーナス像にあるメッセージから出題をされており、施設内をめぐるようなルートになっています。謎解きをすることで、センターを設立した当時の市の思いを知ることができ、とても充実した内容になっていると思っています。

では、実際の内容に移りたいと思います。こちらを見ていただきます。まずQRコードをチラシなどにつけますので、それを読み取っていただきますと、こういった感じで、まず内容を登録していただく感じになります。

登録しますと、先に、既にLINEを登録されている個人アカウントの名前が入って、呼びかけるような感じで会話が始まります。紙ベースだと分かりにくいということでしたので、動画のほうをつながせていただきます。

すいません、動画が進んでおります。スタート画面がこちらになります。そして、このカンタクンがナビゲートするような形で謎解きが進んでいきます。ストーリー設定として、このカンタクンが文化センターのどこかに閉じ込められているので、謎を解きながらカンタクンを救出するという感じの設定になっています。

謎解きの中の進み方なのですけれども、LINE登録しますと、この黒い鍵括弧の中の言葉が全てキーワードになっていきます。キーワードを入力しますと、次の会話がまた出てくるという形ですね。

そして、今度はキーワードを入力すると、練習などというものがまず出てきます。ここで謎解きの練習と使い方の練習という形になっていきます。

この問題の場合は、果物を数字にしていますが、ヒントの出し方については、普通の二重鍵括弧ですかね。練習ノートという言葉があるのですけれども、これがヒントを出すときのキーワードになっていきます。という感じで進んでいくという形ですね。

謎解きについては、できる、できないはそれぞれですが、最終的には答えも出せるようにはなっているので、失敗で終わるということはないですね。一応、文化センターのヴィーナス像の後ろにこういったものが貼ってあるので、読んでいただければなと思います。

あとは、郷土資料館については、ルート案内みたいな形になっていますので、それぞれの展示を見ながら、眺めながら進んでいただいて、最後この馬胎石、丸い石のところ

が馬胎石なのです。流れはこんな形で。

○委員長 ありがとうございます。すいません、機材トラブルもあったので延長してもいいのですけれども、一旦区切らせていただいて、質疑に移らせていただきます。

では、委員の方、いかがでしょうか。

●●委員。

○●●委員 とても斬新な面白いアイデアだなと思いました。私どもの施設、小学生の子がいっぱい来るのですけれども、QRコードを読み取るLINE自体を、アプリを持っているかどうかというのは、持っていないと、これは参加できない感じなのですか。それとも、紙ベースでもできるし、LINEでもできるという流れなのでしょうか。

○白井市文化センターを未来につなぐ会 基本的に、今回に関しましては、LINE登録をして使っている世代という設定で作らせていただいておりますので、持っていない方ですとか、お子さんですと、そもそも携帯を持っていませんので、親子で参加するというイメージで作らせていただいております。

○委員長 よろしいですか。

○●●委員 はい。

○委員長 ほか、いかがですか。

●●委員。

○●●委員 確認なのですけれども、無人ということ、事業費も低く抑えられているということなのですけれども、こういう面白い提案をされるということであれば、例えば文化センターとか、そういう管轄の部署とかに事業の提案をすとか、そういったこともどうなのかなと思うのです。それがまず1点。

○委員長 1点ずつでお願いします。

○●●委員 ごめんなさい、一問一答なので、提案したらどうだろうかというところがあるのですが、市民活動団体としてやっていきたいというところのそのの意味を教えてくださいいただけますか。

○白井市文化センターを未来につなぐ会 今の御質問ですけれども、この謎解きは、一つの目的としては、もちろん文化センターのアピールなのですが、あと、ほかの市民団体の方と協力して、活動の輪を広げるというのもあります。

当会の活動としましては、いろいろ多岐にわたっておりまして、一つは、文化センターに提案も、もちろん一つの活動にしております。最近では、できればお子さん向けの演奏会をしてほしいということで、こういったゼロ歳から参加できるオーケストラのコンサートというのがネットのチラシにあったもので、こういったものを自主事業でいかがでしょうかというお話は、させていただいたりもしております。

あとは、当会としては、まだ設立して1年ぐらいですので、考えてはいますけれども、できることというのは少ないのですけれども、今後としては、もうちょっと文化センタ

ーを使ったイベントですとか、あとは、今ワークショップがすごく頻回に開かれていますので、そういったところにも参加して、皆さんとアイデアを共有したり情報共有したりというところの活動等はしております。

○委員長 ありがとうございます。

○委員長 なかったら、また。

●●委員、どうぞ。

○●●委員 ありがとうございます。今のお話にダブるかも分かりませんが、ほかの団体とかイベントに参加して、こういうことを進めていくことというのは、あり得るということですね。イベント、これについては文化センターだけではなくて、ほかの行事とか事業なんかに参加することというのは、これから先、考えてはいますか。

○白井市文化センターを未来につなぐ会 ほかの事業というと、ワークショップとかということでしょうか。

○●●委員 こういう。

○委員長 質問の趣旨としては、文化センター以外の例えば、ここでやるイベントとかにも、この仕組みで何かやることはお考えですかという趣旨ですかね。

○白井市文化センターを未来につなぐ会 基本的には、やっぱり文化センターをもっと市民の方に親んでもらいたいというのが会の趣旨ですので、基本的には、文化センターを舞台にしたイベントを中心にしております。

○委員長 ありがとうございます。

ほかの方、いかがでしょうか。

○●●委員 アイデアの詰まった発表、ありがとうございます。

文化センターの魅力を発信することが目的なのかなというふうを感じ取っているのですけれども、どういう魅力を伝えられるツールとお考えでしょうか。

○白井市文化センターを未来につなぐ会 今回の謎解きにつきましては、まず郷土資料館ですね、訪れる方、多分、結構限定されているかなと思います。子供たちは、多分プラネタリウムとセットで訪れることが多いのかなと思っているのですけれども、よく見ると、逆刃刀とか、実はちょっとマニアックな面白いものがあつたりもするので、ぜひ、そういうのも一緒に見て楽しんでもらいたいなというところで、今回のイベントは郷土資料館をめぐるようなスタイルにして行っております。

でも、せっかく来てもらうということで、全体を見てもらったほうがということでしたので、外のヴィーナス像ですとか、図書館の宣言ですとか、あとプラネタリウムさんの常設展のところとかも、1問ずつ取り上げていただいております。

○●●委員 ありがとうございます。

○委員長 では、●●委員、時間があるので、どうぞ。

○●●委員 先ほど御質問させていただいたのですけれども、代替えというようなこと

も私、言わせていただいたのですけれども、活動団体としてやっていきたいという、その自立性とか意義について最後聞いたと思うのですが、そこを教えてくださいませんか。つまり、この活動を始めた思いというのがあると思うのです。その意義ですね、今後もしもやっていきたいと。

○白井市文化センターを未来につなぐ会 活動に対しての思いということによろしいですかね。

○●●委員 はい。

○白井市文化センターを未来につなぐ会 私も白井市出身ですので、文化センターは子供の頃から親しんでいるものの一つです。そして、今、子供2人いますけれども、これから、うちの子供たちも、恐らくプラネタリウムですとか、何かの発表会で使ったりとか、やはり親しんでいく施設かなと思っております。

団体として活動していく中心には、やはり子供たちが使うものだから、ぜひ残していきたいというのが、一つ、私の中にあります。

会全体としては、白井市としてはとても立派な施設であり、まだまだ使い方によってはまちの活性化にもつながるものなので残していきたいと、そういった意向で皆様、活動しております。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、すいません、お時間となりましたので、未来につなぐ会さんは以上とさせていただきます。

○清水口つながり協力委員会 本日は、清水口つながり協力委員会の御説明の場を頂き、大変ありがとうございます。私が申請を实际行いました●●と申します。

本日の説明は、お手元の資料の7ページ目、8ページ目を中心に、申請ではお伝え切れなかったいきさつとか思いを御説明させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

○清水口つながり協力委員会委員長 委員長の私、●●です。よろしく申し上げます。

2011年、東日本大震災のときに、集合住宅管理組合の理事でした。エレベーターが停止する中、全世帯のガスが停止し、その復旧と安否確認に、自治会と組合理事で全戸を歩いて確認しました。高層階では、室内にいられない状況もあり、集会所を避難所として宿泊できるようにして、炊き出しもしました。壊れたタンスや家具を南山清掃工場跡地に運んでよいとの防災無線のお知らせをいただき、住民に2トントラックを提供していただき、ガソリンの続く限り搬送してもらいました。これらはマニュアルにあることでもなく、その場その場で、見知った同士が知恵を出して対応したものです。

今、なぜ清水口つながり協力委員会なのか。自治会や管理組合は、2011年当時と違い、加速度的に高齢化と組織の弱体化があり、防災マニュアルの更新もできておりません。

同じ住宅範囲だけでは、防災に住民の力を発揮することが困難になっております。

我々委員は、27名中16名が自治会長や管理組合理事経験者で、30代から70代の平均年齢50代です。たまたま夏祭りで知り合った面々ではありますが、同じ住宅団地で、挨拶だけの住民同士と違い、毎年数か月の準備期間を一緒に汗をかき、その知識や能力を知り合う、10年、20年の間柄です。メンバーは、大工、とび職、大型トラック運転手、電気工事士、元自衛官、ゼネコン現場監督、システムエンジニアと、多士済々です。それぞれ違う自治会の所属ですが、いつでも声をかけ合う仲間です。清水口つながり協力委員会を横串の力として地域活動を補完することを目指します。

私は、東日本大震災のボランティアで宮城県と岩手県の泥かきや片づけ作業に参加し、南三陸町、志津川高校体育館の避難所への炊き出しにも行きました。公益社団法人に所属して、福島の帰還困難区域の方々に寄り添う活動を今も13年間続けております。能登半島地震では、富山市から能登半島先端の緑剛崎灯台まで見て回りました。それらの経験の中から、住民による自主的な活動の大切さを痛感しております。

以上です。

○清水口つながり協力委員会 清水口つながり協力委員の●●でございます。現在、白井市社会福祉協議会に勤めております。また、白井市自治連合会副会長及び清水口小学校校区支部長を2年務めております。

私たちの目的は、地域のつながり、世代のつながりの実践舞台を創造することであり、本来、自治会活動は、地域を盛り上げ、防犯や防災活動に欠かせないものであります。

今年の3月に実施した自治連合会清水口小学校校区支部主催の防災訓練には、つながり協力委員たちが積極的に参加してくれました。お互いに助け合う精神が育まれ、信頼関係があるからこそであります。協力委員の半数以上が元自治会長だったこともあり、そのつながりは自治会内にとどまらず、幅広い交流があります。

私たちの活動を通じて、改めて自治会活動の重要性に気づき、自治会活動が再び活性化し、清水口全域でのつながりが強められていくと考えております。

さらに、清水口小学校PTA内におきましても、自治会活動への興味が増し、若いお父さんやお母さんたちが、防災訓練や夏祭りへの参加が盛んになり、幅広い世代の交流が促進されるというプラスの効果が出てくると考えております。

ご清聴ありがとうございました。

○清水口つながり協力委員会 お手元の資料では、活動の内容と、資料のポイントに合わせた解説も書かせていただいております。あと、実際の夏祭りとか防災訓練の写真等もございます。

本日は、時間の関係上、こちらの説明を割愛させていただき、御配慮していただければ幸いです。ありがとうございました。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、この後、委員から御質問をさせていただきます。よろしく願いいたします。いかがでしょうか。

●●委員、どうぞ。

○●●委員 どうもありがとうございます。防災教育とか防災学習の促進というような意味合いが随分入っている、そういう試みかなと認識しました。防災教育、防災学習をプログラムとして設定して進めていく際、活性化に当たっての何か工夫、特に広く参加してもらうための工夫といったところはどんな感じでお考えなのでしょう。

○清水口つながり協力委員会 学習とかプログラム風なのですが、まず各自治会がどのような計画を持っているのかとか、防災に対してどのような備品を持っているのか、どういう方がやっているのかというのが、実は共有されていない現状があります。我々のこの協力委員というのは、地域の6自治会以上の参加者がおりまして、ほぼ地域を網羅できるネットワークを持っています。そのネットワークを生かして、そういった情報共有、これを図った上で、どこに何が足りないのか、そういった計画を立てた上で、各自治会に合わせたプログラミングをしていきたいと今は考えておりますので、現状でいいますと、情報共有、それが第一ステップかなと考えております。

○委員長 大丈夫ですか。ありがとうございます。

いかがですか。

●●委員、どうぞ。

○●●委員 とても横のつながりという意味では、すごくいいなと思ったのです。

一つお伺いしたいのが、収支予算の計画書のほうで、収入の自主財源がゼロ円で、事業収入が会議費で7,700円。これ、参加された方から頂くという形になるのですか。印刷費10円、10枚、22回分という、この収入減はどこからというのをお聞きしたいです。

○委員長 これも分かりますかね。収支予算計画書の収入のほうに、事業収入として会議費350円掛ける22回と、以下、印刷費の記載があるのですけれども、これはどんなものなのかという御質問です。

○清水口つながり協力委員会 こちらは、実際この会議費は、夏祭りの実行によって使われるものです。我々は、夏祭りをこの連携をするためのつながりの強化の場と考えておりまして、実際、夏祭りの実行委員会で使われる会議費というのは、我々協力委員会のほうに委託をされていますので、そういった会議に係る費用を実行委員会から我々が頂くというような形の収入として考えております。御説明、分かりましたでしょうか。

○委員長 要は、実費弁償として入ってくるから、収入計上しているということですね。

○清水口つながり協力委員会 そうということになります。

○●●委員 分かりました。

○委員長 ほか、いかがでしょうか。

●●委員、お願いします。

○●●委員 皆様のつながりが、すごく歴史あるもの、発表で感じております。

そういったつながりが強い中で、さらにどういったところのつながりを深めていきたいとお考えですか。質問、以上となります。

○清水口つながり協力委員会 毎年、自治会の方が、各自治会から新しい方が参画されていて、参画されますと、我々の活動と接するとか、そういうことを今はなっているのですね。そうすると、毎年、協力委員会の方が実は増えていっていると。そういう方が今年、我々の活動を見て、やってみたいとか。なかなか今、自治会の中で、そういうふうに盛り上がらないところを、こうやって一緒に朝から晩まで苦勞してやった仲間意識というのが盛り上がってまいりまして、毎年増えていまして。我々ここ2人も20何年以上やっていますし、毎年そういう方が増えていって、平均年齢もまた若いというのが若い方。特に、去年は●●さんが尽力されて、清水口小学校のおやじの会という、御父兄様からの参加があったりとかしていっているのです。我々はこの活動を通じて、そのつながりを強化して、強化していくって、結果そうなっていると。つながり強化するためというよりは、一生懸命やった結果がつながっているというような形になっているというふうな感じでございます。

○委員長 大丈夫ですか。

○●●委員 はい、ありがとうございます。確かに、皆さん結束力強いと、新しい方はちょっと遠慮しちゃうかなと思うのですけれども、そういうお心遣いが大事かなと思いました。ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがですか。大丈夫ですか。あと1分あります。

●●委員、どうぞ。

○●●委員 お世話になります。本当に皆さんの結束力ですか、すごいなという感じします。また、いろいろな人たちが集まっての、プロの人たちが先頭になって、これは本当にこういう団体というのはなかなかすばらしいのかなと思っていますし、これを継続してと思えば、防災のほうも力を合わせ、今、別の資料を頂いたのだけれども、相当の経験を持った人だとかがやっていますので、この辺がもっともっと地域に活躍していただくとうれしいなと思っています。

清水口さんだけじゃなくて、ほかの自治会も、やっぱりこういう知識というのは欲しいなという感じもしますので、ぜひ、そこら辺も含めて、広げていっていただければなと思っています。

ただ、予算的に、今見ているのですが、祭りの照明レンタル料とあるのですけれども、この辺は、購入するとか何とかという形、これから長く続けるとすれば、そういう方法というのは、何か考える方法というのはありますか。

○清水口つながり協力委員会 今現在は、確かに収入というものはない状態ですが、しかしながら、今後、清水口のまちづくり協議会設立に向けて、準備委員会が立ち上がります。既に危機管理課様のほうから、防災部会立ち上げに積極的に参加してほしいのだというお話もいただいておりますので、追い追い、もちろん自前で調達できるものがあればいいのですけれども、ない間は借りる、共用させていただくというスタンスで臨んでおります。

○●●委員 ありがとうございます。

○委員長 そうしたら、ちょうどぴったり時間ですので、つながり協力委員会さんは以上とさせていただきます。どうもお忙しいところ、ありがとうございました。

○グリーンレンジャー 南山公園の葛等除去事業のグリーンレンジャーです。今日は、先ほども御紹介ありましたが、会長の●●、作業部隊長の●●、私、事務局長●●の3人で参加しております。よろしくお願いします。

昨年度は、活動促進型の補助金を頂きました。おかげさまで、刈払い機、その替え刃、大鎌、のこ、葛除草剤のケイピンエースなど、備品や消耗品をたくさんそろえることができました。これらを使って笹竹を刈り払いますと、遊歩道から水辺が見えるようになったり、あるいは、小・中学校への通学路、この見通しが大変よくなりました。

南山公園には、タヌキとかカヤネズミ、ウグイス、カワセミなど、これら見かけましたけれども、これらの小動物の生息環境保全にも配慮して、水辺から5メートルの笹林は残すようにしております。

さらに、グリーンレンジャーの活動場所ですが、白井駅近くの南山公園です。赤い線が公園区域です。青い線は防災調節池です。公園との兼用施設になっています。河川区域は千葉県が管理し、そのほかは白井市が管理しています。住宅地の中にあって、池と周辺の調和が非常に美しい景観です。

しかし、今では、法面は葛や雑木で覆われて、水辺まで葛が迫ってきているような状況です。以前はきれいだった法面ですが、ここには笹がなかったのですが、遊歩道から水面が見えていました。しかし、今は笹竹が覆い茂って、なかなか見えません。

葛などがはびこるのは、河川区域は5メートルしか除草しないのが原因ではないかと思っています。この黒い線が境界です。左側が公園、右側が調節池で、河川境界から5メートルだけ除草されています。

右の写真も同じように、公園と河川の境界から5メートルだけが除草され、それ以上、雑草などが残ったままです。見かねた仲間で、県が除草しない範囲は我々で除草しようということになりました。葛を引き寄せて、草刈りをしました。当初は、自腹で草刈り機も買いました。樹木や法面を覆っていた葛、これを取り除きました。

池の法面には、葛がのたうち回って、雑草や雑木が繁茂していました。堆積していた

土とともに取り去ると、石張りが現れました。そして、冬にはカモが羽を休めるようになりました。

葛は、つるを取り去らなければ退治できないので、根にはピン状の薬を打って、根絶を図ります。

台風の後倒れたままの竹、水辺に置かれた竹、そんなこんなでゴミも捨てられるようになりました。倒れた竹を伐採して竹林に並べたり、短く切って青竹踏みに配ったら、大変好評でした。見えなかった水面も、見られるようになりました。

荒れ果てた水生園の周りのブッシュを取り去ると、奥のキシウブも見られるようになりました。これ、5月頃ですね。

アダプトプログラムの合意書を締結してから3年目になります。我々グリーンレンジャーと、白井市と、千葉県との合意です。我々の活動が正式に認められ、支援が受けられるようになりました。

作業効率をさらに上げるため、今年度は、刈払い機をついたチェーンソー、剪定トリマー、ベスト、物置倉庫、そのほか、これらの消耗品等を揃えたいと考えております。よろしくお願ひします。

きれいになった法面に座って、「夕陽に乾杯！」するのが我々の夢です。

グリーンレンジャーは、こういう面々です。隊員12人、取りあえず元気で、高齢者ばかりです。ありがとうございました。

○委員長 まだ少しお時間ありますけれども、大丈夫ですか。

○グリーンレンジャー もういいです。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、委員のほうから、昨年同様、質問させていただきます。いかがでしょうか。

●●委員、どうぞ。

○●●委員 メンバー11人、御自身でおっしゃっていたので、高齢者の方々ということなのですが、次へのバトンタッチに向けて、どういうふうを考えているのかというところなのですが。最終的に、この補助年度が2年目、3年目、4年目以降、この継続性について質問をさせていただきたいのですが、御回答いただけますでしょうか。

○グリーンレンジャー 我々としても、それが非常に懸念材料ですが、おかげさまでといたしますか、まちサポのパネル、あるいは、文書で紹介してもらったり、あるいは、我々自身で、池の周りに橋がありますけれども、そこにチラシを貼ったりしまして、そういったことで何とか新しくメンバーが増えたりはしています。

特に、先ほどの写真、ここにありますが、これで、この左側の3人は、実は2人、去年の暮れから今年にかけて亡くなられたんです。あるいは、お一人は、体調が悪いということで退会されたのですが、何とか先ほどのチラシの効果かどうか分かりませ

んが、今年になって3人増えたというのがあります。そういうことで、できるだけ我々の活動を周知することをやっていきたいなど。

特に、実は昨日作ったのですが、名刺を作って、それをできるだけいろいろなところで配って、活動を紹介しますと、そういったこともやりたいなというふうに考えております。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがですか。

●●委員。

○グリーンレンジャー すいません、追加で。

○委員長 どうぞ。

○グリーンレンジャー 先のことを考えると、早々に考えなきゃいけない問題なわけけれども、我々は高齢者での集まり、活動なので、やっぱりみんなそれぞれに、年寄りのそういうものを持っていますので、逆に、あまり組織が大きくなり過ぎると、運営上にいろいろな問題が起きてくるというのも、実際の話、たくさんあることなのですよね。

ですから、様子を見ながら、そして、将来的に、もし大きくなれるようであれば、分派したりとか、今は木曜日に活動していますが、火曜日、金曜会とか、そういう形になってくれれば良いなど、そういう理想を考えています。

○委員長 ありがとうございます。

では、●●委員。

○●●委員 どうもお疲れさまです。

去年もちょっと質問したかもしれないのですが、私も里地里山のことをやっていたので、非常に関心領域であり、すばらしい活動だなと思っております。

今、保全整備活動を御熱心にされているということで、活動に際して、併せて、若者たちとか子供たちを交ぜた観察会だとか、あと、そこにグリーンレンジャーのマスコットの絵がありますけれども、子ども達からも「僕もレンジャーになりたい」みたいな、そういう青少年が生まれてくるととてもにいいなと思うのですね。そんな動きを起こすような若手世代への育成活動の工夫の余地も結構あるのではないかと。保全活動と併せて、教育・学習活動面いろいろな展開ができるんじゃないかなと思うのですけれども、その辺りのお考えというのは、どうなのでしょう。それが恐らく、次の担い手不足の対策にもつながってくるのではないかと考えます。現在、いわば「グリーンレンジャーシニア」のみですが、今後「グリーンレンジャーヤング」「グリーンレンジャーキッズ」といったように、会が展開できるといいのかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○委員長 白井高校が近いということですよ、たしか。そこら辺、どうでしょう。

○グリーンレンジャー すばらしい御質問で、まさに同じ問題意識、我々持っております。

して。具体的に、今おっしゃったようなことを実現するのに何が必要かということを見ると、高校もそうなのですけれども、その前の小・中学校、遊歩道の前にも中学校、小学校あるのですから、その小学生、中学生が参加できるようなイベントを考えると、例えば、今の水生園も荒れ果てたままですけれども、あそこを今キショウブがずっと繁茂してきているのですけれども、キショウブをさらに広げるとか、あるいは、他の植物を植えるだとか、小学校、中学校と連携することも考えたいと。

たまたまといいますか、●●事務局長がまちづくり協議会の会長をやっておりまして、そのまちづくり協議会とも連携をして、できる限り小学校、中学校、できれば高校生、巻き込んだ形に将来的には持っていきたいなど。

さらに、もう一つの人をひきつけるイベントとしては、法面が随分きれいになってきますので、そこに桜を植えて、何か人をひきつけるスポットにできればいいのかなと、そういうふうなことを考えております。

○●●委員 ぜひと思います。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがですか。

●●委員。

○●●委員 質問ではなく感想っぽいことになってしまうのですけれども、ふだん皆さんが活動されているところは、法面とか目につきづらいところなので、チラシの効果があったり、今、名刺とか若い子というような話もありましたが、何かもっと活動がアピールできるようなところも、予算使っていただいたりも発展ができるのかなと思いました。ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。

お二人はよろしいですか。

●●委員、どうぞ。

○●●委員 本当にこの活動を見て、皆さん大変な思いしているなと感じがします。本当にご苦労さまです。

ただ、皆さんが健康、気をつけていただければというので、一言しかありません。よろしくどうぞお願いしますという感じです。

○委員長 ほかの方、いかがですか。

○グリーンレンジャー 活動していて、最高齢が86歳という、86歳で草刈り機持って動いているわと思うのですけれども、取りあえず、元気でみんなやっています。

○グリーンレンジャー ちなみに、一番若いのが70幾つだ。

○グリーンレンジャー 69歳です。

○委員長 60代も加入されたということで。初回は、たしか全員80代というお話だった気がする。

○グリーンレンジャー そうそう、先日69歳の方が参加しております。

○委員長 それは、それは。

○グリーンレンジャー 参加型で、小学生や中学生にも、いずれはというふうに考えているのですけれども、まず自分たち、やっておかないといけないのは、切り株とかもまだ残っているのですよ。そうすると、我々でさえ、その切り株で転びそうになったり、そういうことが起きるので、これは経験上で、今やっている中で感じるものなのですけれども、まず、それをちゃんと除去して、それで作業が安全にできるような、そういう状況を作り出してから、子供たちにも何かやってもらえることがあればというふうに考えています。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、ちょうどお時間となりましたので、グリーンレンジャーさんは以上とさせていただきます。お忙しいところ、どうもありがとうございました。

### (3) 補助金審査 [非公開]

(理由) 白井市情報公開条例第9条第1項第5号に該当するため。